

# HOYOG 教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所  
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号  
(本願寺神戸別院内)  
電話 神戸(078)341-5949(代)  
【編集】教区基推委広報部

1991. 12. 52号

宗門が進めているビハラの活動の啓蒙と推進をはかろうと、兵庫教区ビハラ研修会が十一月一日、別院で開催された。

今回で四回目の開催となったこの研修会は、教区内に広く理解と実践を求め、ためにビハラ推進部会の主催で、毎回、社推協兵庫支部・教区寺婦連盟・仏婦連盟の共催で開催されており、今回も本堂一杯の二百八十六名の参加となった。

## 現実問題を話し合い

### ビハラ研修会に二百八十六人

今回は講師に本派社推協副会長の京極通義師(北豊教区門司組林現寺住職)と京都南病院老人保健施設めぐもりの里副施設長・細井恵美子師のお二人を迎え、基調講義をいただいた。

京極師は「念仏者の社会福祉」と題して「医療の現場でお医者さんは徹夜の手術であろうが、ただ一生懸命に処置をするだけ」であり、そうした中で現在の先端医療と社会福祉の関わり、



シンポジウムで京極師と細井師

続いて柳川真隆ビハラ推進部会長の司会でシンポジウムが持たれ、会場の参加者から意見や質問が寄せられた。

それらの中には、ビハラ活動推進の腹がまえについての質問もあり、京極師が「病気が長期・慢性化した現代では、お医者さんだけでなく精神的な支えが必要。ビハラは活動を通して私が育てられていくものである。社会的なニーズに答えることが一つであるが同時に、こうしなくてはならないというお互いの関係のニーズに答えることが大切」と自身の病気の経験で死の問題を考えたことにもふれながら答えた。

その他、教区内でビハラの実践施設と推進者の組織の確立を望む意見もあり、今後、教区での活動推進のあり方を考えさせられた研修会となった。

参加者からは「実行が難しいでしょうね」(阪神西組万照寺門徒、中田悟一さん)、「できることなら参加したいですが、実行となると現実の問題が多くある。今日の話はその通りだと思います。」(神戸湊組尊光寺、前川敦子さん)などの感想が多かった。



十二月が来ると思い出す。終戦の年、北朝鮮の山河をさまよいたが

ら、死んでたまるものかと己に言い聞かせ餓死状態の中、三十八度線を越え九死に一生を得て博多に上陸した。四十六年前の十二月十日だった◆復員局に届け出ると給料四ヶ月分二百八十円、無賃乗車券と二日間の食糧として米五合、沢庵二本もらい貨物車に乗せられ明石へ。途中閻屋が大きなリュックを背に、両手に荷物をもって乗り込んでくる◆これが日本の現状なのか情けなく思った。空腹を満たす為、沢庵をかじり水を飲み、自分の帰りをひたすら待っている両親の許へやつの思いでたどりついた。私は五才の頃父に習った正信偈で六人の葬いをした◆北朝鮮で多数の方が故郷に帰ることなく亡くなった。あの時の埋葬地と遺族の住所は今も記憶しているが、もし行けるならば遺骨だけは持ち帰り、遺族にお渡ししたいと思いつけている。このままで終わるのか。誠に残念だ。南無阿彌陀佛。(赤松 尚之)

## 12・1月

教区たより		津村別院	
7日(土) 第一土曜仏教講座「道」蓮 清典師 1時半	18日(水) 京阪神都市開教本部会議	19日(木) 第4期寺族婦人連続学習会(第1回) 別院	20日(金) 門徒総代会役員会 10時半
9日(月)~10日(火) 中央基推委員会総会・研修会 本山	21日(土)~22日(日) スカウト仏教章取得講習会 別院	25日(水) 年末組長会 1時半	28日(土) 教務所御用納め '92年1月1月(水) 別院修正会 7時
11日(水) 仏婦連盟常任委員会 10時半	12日(木) 連研検討部会 1時半	8日(水) 教務所御用始め	
13日(金) 研修指導員部会 1時半	14日(土)~15日(日) 仏青研修会 別院		
14日(土)~16日(月) 別院常例法座 藤谷俊雄師 1時半	17日(火)~18日(水) 第3連区基幹運動研修協議会 和歌山		

## 総代参拝研修に 延べ三百七十人

十月二日から開催された兵庫教区全寺院門徒総代表参拝研修会は、去る十一月二十日、本年度開催予定の十回を終了した。十回までの研修会には教区内から延べ三百七十一名の総代さんが参加して「今、何をなすべきか」門徒総代としての使命」というテーマのもと、教化センター設立委員会委員から「建築計画について」の問題提起、分科会・全体会などで話し合いがなされた。

話し合われた内容は、教化センター設立・過疎寺院対策・教化活動の活性化・人材養成など多岐にわたり、懇親会や宿泊の部屋でも総代さん同士が各地の現状や寺院の運営など情報交換しあう姿もみられ、教区内全域から集まる機会が少ないだけに意義のある研修会となった。

感想の中から「今回の総代会は、センター建設についての協議説明会とはつきり案内すべき▽初めて参加させて頂き有意義だったと思います。清掃・管理をしっかりと

### 組だより

#### 実業組で連研修了式

十一月三日夜、円徳寺において、実業組第七期連研修了式が行われた。

教務所より赤松賛事の出向をお願いし、住職寺族十五名、修了生百三十一名が参加し、盛大厳粛な式となった。

真宗宗歌、おつとめの後組長が、二年間に及ぶ長期研修の労を讃え「連研が各自の今後の開法生活の出発点であり、今後は名実とも

生前の「苦勞を偲び 謹んで敬弔の意を表します。(敬称略)

播磨中組正願寺前坊守	誓照院釋尼玉真	岩田 玉子	11月3日	78才
神戸東組安楽寺住職	「正覚院釋憲昭」	山内 憲昭	11月6日	77才
神戸中組大仙寺住職	「慈照院釋妙孝」	圓山たか子	11月7日	84才
神戸西組長善寺前住職	「寶松院釋禾周」	平松 禾周	11月9日	84才
岡山南組光清寺住職	「慈光院釋慧之」	千輪 慧	11月17日	73才

▽教区の存在意義を明らかにし、教化活動を全門徒に▽門徒全員に趣旨をよく説明して、納得して喜んで設立に参加できるように努力しなければならぬと思う▽むつかしい問題もありますが、これを機会に神戸別院の存在する意義を、深く共に考えて行きたい▽それぞれの寺において門徒と寺の間に立つての苦勞が語られていたように思う▽参加者が予定より少なかった。全代表総代の参加できるように今一度努力すべき

休憩後、讃歌練習があり最後に宏林教正組相談員より「連研修了にあたってこれからの使命」と題して、おむね次のような講話があった。

「いま、宗門は全員開法・全員伝道と動いています。考えてみましょう。みなさんはどうしてこの連研に参加しましたか。またどうして仏法を聴聞するようにになりましたか。そこには、仏法を聞こうとする心を育ててくださった方がいるはずで、この連研にも参加しようとして誘ってくださった方

・ 伝道は、自分の心を磨いてくれます  
・ 法を伝えることは、菩薩行です  
各寺の行事にも積極的に参加して、全員で開法し、全員で伝道していく念仏者となろう」

今後は組として、連研修了者のアフターケアについて、何とか形のあるものを作っていく必要があることを確認しあった。

(実業組円徳寺・宇野修己)

# 「仏壮活動から得たもの」

## 本山で北本氏が発表

去る十一月三日、本山で開催された第十回全国仏教壮年会での教区代表、北本梅雄氏の体験発表をご紹介します。

只今ご紹介いただきました兵庫教区加古川組福正寺仏教壮年会々員、北本梅雄でございます。よそ行きの言葉をよう使いません。魚屋三十年、仏教壮年会に参加させていただきまして十七年、その間いろいろと勉強させていただきましてこの一端を述べさせていただきます。

思い出すと昭和四十九年に、同級生であるご院主に「仏教壮年会の準備会に参加しないか」と声をかけていただき、そのご縁をいただいたおかげで今日報恩感謝の日暮らしをさせていただいております。そして昭和五十年に仏壮結成、春は教区の大会、夏はブロック研修、二年に一回開催されますこの大会にも参加させていただいております。また兵庫教区が主催して下

さいます大谷本廟一泊研修会にも参加させていただきました。

研修を終えて帰るとご院主さんと「京都はどうだった」「まあご院主さん京都の二月は寒うございました。大谷本廟では朝六時に起こしていただきました。お勤めをさせていただきます。拭き掃除、ゴミ拾い等をさせていただきますました。冷とうてガタガタ震えました。しかし下着を付けて靴下をはいて手袋をして、寒い冷たいやない。八百年前の親鸞聖人はどうやったやろう。素足にワラジ、身に墨衣一枚、ご苦労をなされたおかげで今我々がこうして浄土真宗に救われた生活が出来るんやないやろうか。そう味わさしていただきました」「そうか良かったな」というようなお話もできました。

また壮年会では町内十ヶ所に福正寺掲掲示板を作っております。お寺の行事のあるときは行事の内容、行事のないときには月に一回法

語を書いて貼っております。「手を合わす家庭に育つよ子ども。富なくも心静かに聞くみ法」など町内の皆さんに喜んでいただきました。

また、昭和五十五年に寺総代の一員に加えていただきました。昭和五十六年に「親鸞聖人御誕生八百年、立教開宗七百五十年法要」を厳修させていただきました。そのお練りの先頭役を務めさせて頂き、お練りが福正寺山門にさしかかった時には腹の底より熱いものがこみ上げ、とめどなく流れる涙をどうすることもできませんでした。あの感激、感動は私の心に焼きついて生涯離れるものではありません。

昭和五十九年にはご門主様の御巡教をお迎えすることができました。ご門主様とともにお念仏させて頂き、年のいった人も身体の不自由な人も感激の涙でいっぱいございました。昨年十一月十九日に我々



御影堂で発表する北本氏

島三郎の歌の文句やないけれど「人の通らん山奥に咲いた紅葉の心意気」という言葉がございますが、人の通らん山奥、名もなく静かに咲いた一輪の花ではないかと思えます。しかしその花も自然の恵みをいただいたて咲いているのです。この私は日々仏の御慈悲をいただいで生活ができておるんではないでしょうか、としみじみ味あわさしていただくんであります。

話は変わりますが、同和問題についてお話をさせていただきます。例えば川の西が一般地区で、東が同和地区としても、ともに仏様の前に座らせていただいでなまんだぶ、なんまんだぶと称えさせていただくお念仏に皆さん差はあるとお思いでしょ。私はないと思います。

十五年前のことです。知り合いの方が私のところへ見えられまして、近所の四年生か五年生の子どもが心臓の病気で手術をせんならん。あなたにお願いに来ましたんやと。血液型を調べたら同じでございましたので私は血液センターで献血をしました。その後その子どもさんが元気になって親ごさん共々お礼にこられま

ここで憶測でものを言うことは危険でございますが、あえて言わしていただくならば、その子どもさんが成人し結婚問題が起る。「そらあ良かったな」と親ごさんの賛成を得られれば結構でございますが、千に一つや万に一つ「ちよっと待てよ」と。我が子が命のな

いときは頼みます、拝みます。成人して元気になって「どこからもうねん。ちよっと待てよ」とは私は理解できません。差別する側が悪い、される側が悪いと言っているのはございませぬ。

私たちは手を合わせお念仏を申させていただきます。できれば反省もできれば努力もできるんじやなかろうかと思う次第でございます。

先ほど皆様が大きな声で仏壮の歌に「我等は無碍の大道を」と歌われました。一人一人がお念仏を喜ぶことによつて差別のない社会が実現できるのであります。これから先、後住さんの手となり足となつて仏壮の一員として寺の行事に参加させていただき、悔いのない人生を送りたいと思っております。(文責在記者)

# 新報発送を手助け

## HOPE

◆11月1日◆第四回ビハーク研修会を別院で。二百八十六名が参加◆寺婦運営委員会を別院で。第四期寺族婦人連統学習会・第五回開法旅行他について。第四期寺族婦人連統学習会は十二月十九日から三回にわたつて、研修読本第二章・正信偈の唱法等を学習の予定◆2日◆第一土曜仏教講座を別院で。講師は大峯顕師(大阪大学教授)テーマは「この、いのち」大峯師の「大きないのちのなかに目が覚めることが往生なんです」という言葉をメモする参加者も◆3日◆第十回全国仏教壮年会を本山で。教区から二百五十名が参加。北本梅雄氏(加古川組福正寺門徒)が体験発表◆六栗組連研修了式に赤松賛事出席◆4日◆赤穂北組浄光寺(布瑩堯之住職)の落慶法要に教務所長出席・祝辞伝達◆5日◆淡路組宣徳寺(藤栄行住職)の落慶法要に赤松賛事出席・祝辞伝達◆6日◆7日◆第六回教区全寺院総代表別院参拝研修

を別院で。三十八名が参加。「これから仕事の打合せで」と懇親会場を出る総代さん◆7日◆別院仏婦学習会◆別院仏婦定例法座。講師は岩田義文師(阪神南組西法寺)◆8日◆9日◆第七回教区全寺院総代表別院参拝研修を別院で。三十四名が参加。「住職との日頃のコミュニケーションをもっと持つべきである」と分科会での意見。今回は女性の総代さんも参加◆9日◆門徒推進員役員会を別院で。九月七日に阪神東組源正寺で行われた門徒推進員研修会の反省と、次回開催・会報発行について他。この日はちょうど教区新報発送作業をしており、早く来られた推進員さん達がお手伝いをしてくださいました◆11日◆午前中に布教団副団長会議、午後役員会を別院で。規約改正や教区総代表別院参拝研修、本山ご正忌の通夜布教、本山常例布教出講者推薦などについて協議。また、四百年法要御満座のご親教のおこころを体

区においても記念布教大会が明年の三月十二日に開催されることとなりました。会場は豊岡市を予定、日程としては午前午後を通して教区内各ブロックより布教使五名の出講で、「ご親教」と「教書」のおこころについて布教大会が実施されますので有縁の方々へ参拝奨励ください◆12日◆13日◆第八回教区全寺院総代表別院参拝研修を別院で。三十九名が参加。「あまりにいたんだ建物を見て、何かあわれを感じた」という感想も◆神戸西組長善寺前住職、平松禾周師の葬儀に教務所長参列・達書伝達◆13日◆14日◆第九回教区全寺院総代表別院参拝研修を別院で。四十三名が参加。毎回、二日目の法話は「有難い」と皆さん喜んで帰られます。「別室も禁煙にしてほしい」という意見も◆14日◆神戸真宗連盟(藤宏隆理事長)第五回真宗講演会を別院で。今年のテーマは「病いに生きる」、講師は小西輝夫師。「古人のいう、山で道に迷ったとき人は木を切つて(年輪を見て)

方角を知つたという。われわれも、病いに生きた人をおして、今を生きたる資糧にしましょう。」とテーマ説明にありました◆市立須磨北中学校の生徒約二十名が別院見学◆氷上東組寺族婦人同朋講座を福照寺で。講師は杉本昭典師(北摂組光澤寺)◆14日◆16日◆別院常例法座。講師は川端正道師(岡山北組報恩寺)◆15日◆国立ハンセン病患者療養施設長島愛生園・光明園で報恩講。岡山南組のご住職の方々が法中として出勤され園の多数の同行がお参りのなか、愛生園の真宗同朋会と光明園の真宗法話会で法要が厳修された。

教務所長も出席し挨拶。講師は杉本昭典師と高崎正英師(神崎組浄光寺)でした◆少年連盟役員会を別院で◆16日◆報恩講に備えて、仏具のおみがき奉仕を別院◆17日◆別院団参が二組。京都教区下西組欽仰寺門信徒会三十名と和歌山教区加茂組若寺婦五名でした◆18日◆佐用組仏婦幹部十三名が別院団参。清掃奉仕の後教務所長が法話◆教務所職員会・勤式研修会。別院報恩講での御伝鈔拝読にあたった職員はこの頃から特訓を始めるとか◆19日◆20日◆第十回教区全寺院総代表別院参拝研修を別院で。三十三名が参加。「足痛み聞きし法話もうわのそら」と、ある総代さん。今回で今年度開催予定の十回を終了しました。来年度は五回開催の予定です◆21日◆江並教堂報恩講に教務所長他出席。教堂の法務、運営にあたる井上法順師(江並教堂参勤)は「平日のお勤めでしたが大勢のご出勤、お参りをいただき感激です。今後もうこうあってほしいと

世話方の皆さんにもお話しし、ご門徒にもお願いしました。教務所の方々もご苦労様でした」と◆ビハーク推進部会を別院。第四回研修会の反省とビハーク兵庫発足へ向けての具体的な準備について◆24日◆高砂組幹部研修会に教務所長出席◆27日◆神戸湊組寺族婦人同朋講座を尊光寺で。講師は松島法城師(多紀組専福寺)◆27日◆29日◆別院報恩講を厳修。講師は藤野堯文師(東海教区桑名組教宗寺)。今年は大変暖かな報恩講で、二日目には雨にもかかわらず満堂のお参りでした。詳細は来月号でお知らせします。

# 各地で報恩講

